

第6回総合計画・復興計画策定検討部会 議 事 録

日 時 令和3年4月23日（金）
13時30分～15時20分
場 所 杉妻会館 4階 牡丹

福島県総合計画審議会事務局

1 出席者

(1) 総合計画審議会委員 計9名

川崎興太委員、横田純子委員、今野泰委員、西崎芽衣委員、渡邊博美委員（代理：石井浩）、前澤由美委員、岩崎由美子委員、岩瀬次郎委員、松澤瞬委員

※下線の委員はリモート形式による参加

(2) 福島県 計20名

総務部主幹兼副課長、危機管理部主幹兼副課長、企画調整部企画調整課主幹、避難地域復興局避難地域復興課主幹、生活環境部企画主幹、保健福祉部企画主幹、観光交流局総括主幹兼副課長、農林水産部企画主幹兼副課長、土木部企画主幹兼副課長、出納局主幹兼副課長、企業局主幹兼副課長、病院局主幹兼副課長、教育庁教育総務課主任主査、警察本部企画官、県北地方振興局企画商工部主幹兼副部長、県中地方振興局企画商工部長、県南地方振興局次長兼企画商工部長、会津地方振興局企画商工部長、相双地方振興局次長兼企画商工部長、いわき地方振興局次長兼企画商工部長

(3) 事務局 計4名

企画調整部福島イノベーション・コースト構想推進監兼政策監兼企画推進室長、復興・総合計画課長、復興・総合計画課主幹（総合計画担当）、復興・総合計画課主幹兼副課長（地方創生担当）

2 議 事

新たな福島県総合計画（将来の姿、主要施策等）について

3 発言者名、発言内容

次のとおり

司会（山田主幹）

——開 会——

本日は御多忙のところお集まりいただきまして誠にありがとうございます。本日の進行役を務めさせていただきます企画調整部復興・総合計画課の山田でございます。どうぞよろしくお願いいいたします。本日も一部の委員の方にはリモートでの参加をいただいております。円滑に進行できるように努めてまいりますので、御協力のほどよろしくお願いいいたします。

それでは定刻になりましたので、ただいまから福島県総合計画審議会第6回策定検討部会を開催いたします。

司 会
企画調整部政策監

——挨拶——

はじめに企画調整部政策監より御挨拶を申し上げます。

政策監の葉坂でございます。総合計画・復興計画策定検討部会の開催に当たり一言御挨拶申し上げます。

委員の皆様にはお忙しいところ、リモート形式を含め、御出席いただきまして誠にありがとうございます。また、おかげをもちまして、先月29日、新生ふくしま復興推進本部会議におきまして第2期福島県復興計画が決定されました。この場をお借りしまして改めて感謝申し上げます。

さて、総合計画につきましては議会での議決事項となっております。先月、議会におきまして「新たな総合計画」調査検討委員会が立ち上がったところでございます。議会の調査検討委員会におきましては審議会の議論と並行して実施されることとされておりまして、先日14日に開催された第2回調査検討委員会において、執行部も出席いたしまして、次期総合計画の第1章「総合計画の基本的事項」、第2章「ふくしまを取り巻く現状と課題」について御議論いただいたところでございます。

本日、3月に引き続き、第6回目の策定検討部会となります。本日は、先月御議論いただきました「みんなで創り上げるふくしまの将来の姿」と、将来の姿の実現を目指して県が取り組む主要施策や指標について事務局案を提示いたします。なお、皆様、マスコミ等で御存じであると思っておりますけれども、4月13日、政府におきまして処理水の処分に関する基本方針を決定したところでございます。今回、事務局案におきまして、現在、反映はされておきませんが、今後の状況を見ながら皆様の御意見を踏まえながら修正してまいろうと思っておりますので、よろしくお願いいいたします。

本日も議論いただく内容が盛りだくさんでございます。委員の皆様には長時間となるかと思いますが、さまざまな視点やお立場から御意見を頂きまして議論を深めていただければ幸いです。皆様にはそれぞれの専門分野から忌憚のない御意見をいただきますよう御協力のほどお願いいいたしまして私から

の御挨拶とさせていただきます。本日はよろしく願いいたします。

——議 事——

司 会

それでは次第の3、議事に入らせていただきます。これ以降の進行につきましては川崎部会長にお願いしたいと思います。それでは部会長、どうぞよろしく願いいたします。

川崎部会長

それでは、議事に入ります前に、一言申し上げます。

本日はお忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。今、政策監から御挨拶がありましたように、昨年度、3月に復興計画が決定されました。今日、議論するのは総合計画で、県の最上位の計画に当たりますので、本来であれば、総合計画と復興計画は同時、もしくは総合計画が先行して策定されるというのが本来の姿であります。コロナの影響があつて、先行的に復興計画が策定・決定されました。総合計画も復興計画と齟齬のない形で策定されますが、策定された復興計画の推進に向けて、事務局が中心となり、国あるいは県民、そして関係各課と連携し、着実に復興計画で示された目的や目標の実現に向けて取り組んでいただきたいと思います。また、議論していただいた委員の皆様も引き続き復興計画の実現に向けて御尽力いただきたいと思います。

本日、議論するのは、次第にありますけれども、議事は1点ということになっております。福島県総合計画の将来の姿、主要施策等についてです。前回、第5回部会では特に将来の姿に関して、皆様からSDGsとの関係について多く御意見を頂いたと記憶しております。本日は、皆様から頂いた御意見に基づいて事務局で修正した案とともに、いよいよ総合計画で何をやっていくのかという施策に関する記述がふんだんに今日は用意していただいておりますので、引き続き忌憚のない御意見を頂き、有意義な部会になればと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、早速ではありますけれども、議事に移りたいと思います。先ほど申し上げたように、今日は1点議事があります。「将来の姿、主要施策等について」、事務局より御説明をお願いいたします。

復興・総合計画課長

復興・総合計画課の佐藤でございます。改めまして本年度もよろしくお願いいたします。今ほど川崎部会長からもございましたが、復興計画をまとめ、決定させていただいたということで、実際に具体的に実行していくことが本当に大事だと考えておりますので、各部局と連携してしっかりとやっていきたいと思っております。

本日、御説明に入る前に、参考資料1「第5回策定部会における主なご意見」をお開きいただき、振り返りを先にさせていただきたいと思います。

参考資料1の1ページ目になりますが、事後意見といたしまして、今野委員から「SDGsの言葉や理念は浸透しつつも、具体的内容まで理解されているかは疑問」「一方の利益はもう一方の負担や不利益になる。この改善・解決がイノベーションではないか」といった御意見を頂いております。これについて改

めて考えまして、施策や指標の在り方と関わる非常に重要な御指摘と考えております。SDGsの考え方、例えば、何も考えずに経済成長を追求すれば気候変動に影響を及ぼす可能性があるというのも事実です。改めて皆さんから御指摘、御示唆を頂いておりました調和、バランスという視点が重要であるということだと受け止めております。

本編資料1の24ページに掲げておりますけれども、本計画における将来の姿とした『ひと』『暮らし』『しごと』が調和しながらシンカする豊かな社会の調和、要は、バランスをとった県づくりを進めることが重要であって、各政策の調和をとりながら、県のみならずさまざまな主体と連携し、「イノベーション」という言葉を使っていたいただきましたが、そういう主体と連携して取組を進めていけるよう主要施策の構築などを進めていくことが大事だと考えております。

その際、調和を図るためには、同じく資料1の31ページに掲げていますが、「しなやか」、あるいは「寛容」「魅力を伸ばす」という概念、理念、方向性を明確にしておくこと、さらに併せて、調和というのはぼんやりというイメージもあったりするので、ぼんやりや曖昧となったりしないように、33ページにあるとおり、「誇り」とか「連携・共創」「挑戦」「ご縁」「信頼」という視点で輪郭をつけることが大事だと改めて強く感じております。御意見ありがとうございます。

次に、岩瀬委員から、1ページ目のNo. 2からNo. 5の部分になりますけれども、「議論を深めていく」という表現の修正についての御意見、あるいはふくしまの将来の姿とSDGsの関係性がわかりにくいという御意見、将来の姿について「ひと」「暮らし」「しごと」の分野で分類されるべきであるという御意見、避難12市町村の目指す将来の姿の整理の仕方について御意見を頂いております。

記載表現につきましては御指摘のとおり修正しております。ふくしまの将来の姿とSDGsの関係性につきましては、今回、改めて整理しておりますので、後ほど御説明いたします。

避難12市町村の将来の姿につきましては参考記載として整理をしております。

審議会当日の御意見につきましては2ページ目以降に記載しておりますので、後ほど御確認いただければと思いますが、特に皆様から将来の姿とSDGsの関係性がわかりにくいという意見を多く頂いております。これらの御意見への対応につきましては、先ほどの岩瀬委員の御意見と併せて後ほど説明いたします。

それでは、資料1を御覧ください。「新たな総合計画素案(R3.4.20時点版)」です。こちらは前回の部会でもお示ししておりますが、前回の部会後に頂いた委員の皆様からの御意見などを反映しております。変更箇所は主に赤字にしております。主な変更箇所を中心に御説明したいと思います。

まず18ページ目、19ページ目をお開きください。第2章の「現状と課題」に、新型コロナウイルス感染症について記載をしております。これは、昨年11

月 26 日の第 5 回審議会におきまして、庁内ワークショップを重ねた結果として御紹介させていただいたものを取りまとめたものでございまして「新型コロナウイルス感染症の感染拡大」「新型コロナウイルス感染症が社会にもたらした影響」「県民等の意識・行動の変化で浮き彫りになった課題」の 3 つの項目で記載しております。

18 ページ目の「新型コロナウイルス感染症の感染拡大」の部分については 4 月 11 日現在で感染者数を記載しておりますが、こちらは最終的には取りまとめ時点の最新のものに時点修正をさせていただきます。

「新型コロナウイルス感染症が社会にもたらした影響」の部分につきましては「3 つの密」の回避や新しい生活様式の定着、県内経済の影響について記載しております。

19 ページの「県民等の意識・行動の変化で浮き彫りになった課題」の部分につきましては大きく 3 つに整理しております。1 つ目として「従来からの課題の顕在化・加速化」です。コロナによってデジタル化、移住・定住、健康づくりなど、これまでも課題であったものが、コロナがなかった場合と比べて数年から十数年の単位で解決の前倒しを求められているというものです。

2 つ目として「身体的距離の確保」という新たな視点についてです。対面を前提としていた社会において、人と人とのつながりの希薄化による孤立の問題や、医療や介護など身体的距離の確保が難しい分野への対応などの課題が浮き彫りになっております。

そして、3 つ目ですが「切れ目なく取り組むべき課題」として、コロナ禍においても本県の復興・創生や防災・減災の課題には切れ目なく取り組まなければならないということです。以上の 3 点です。

続きまして、20 ページ目にはデジタル変革の必要性について記載しております。コロナの影響で明らかになったデジタル化への対応の必要性や国のデジタル化への動きなどから、デジタル変革により新たな価値を生み出し、新たな日常に対応するとともに、社会の強靱化を図りながら県づくりを進めていく必要があることを記載しております。

続きまして、24 ページ目から 30 ページ目について御説明します。前回、多くの意見を頂いた将来の姿についてです。まず、24 ページ目ですが、「『ひと』『暮らし』『しごと』が調和しながら、シンカ（深化、進化、新化）する豊かな社会」をふくしまの将来の姿とすることについて変更は加えておりません。

続きまして、25 ページ目については、新設させていただいております。前回の部会におきましては、SDGs を達成することが目的ではない、福島を目指す姿との関係が見えにくいといった、まさに根本に関わる御意見を頂いたところでした。

そのことを踏まえて、「調和しながらシンカする社会」とした将来の姿について具体的にイメージしていただけるよう、「ひと」「暮らし」「しごと」ごとに記載をしたものです。改めて「ひと」「暮らし」「しごと」で福島の社会が構成されていることを踏まえて、まずはこれをベースとして固め、その後の SDGs

との整理においてもこれがぶれないようにしたいと考えております。例えば、「ひと」分野においては「誰もが生涯を通じて健康でいきいきと暮らしている」や、「暮らし」分野では「災害に対するハード・ソフト両面からの備えが進み、災害に強い地域づくりが進んでいる」などとなっております。

なお、それぞれのカテゴリーの中でスリット、切れ目を設けております。その意図は、これまで培ってきた県づくりの先にあるものと、福島が抱える特有の課題である復興に関わるものを分けて記載しています。これについては表記の仕方を含めて今後の整理の中で固めてまいりたいと考えております。

続きまして、26 ページ目をお開きください。前回の部会で多くの御意見を頂いたSDGsと将来の姿の部分です。前回の資料においては、SDGsを左側に置いて、右側に将来の姿を配置する表形式の形でお示したところですが、その整理について「順番が逆ではないか」「将来の姿がまずあって、そこにひも付くSDGsを記載するほうがわかりやすい」といった御意見を多数頂いたところでございます。

これを受けまして、ほかの自治体の整理なども勉強させていただき、ほかの自治体では文章にしているものや表形式にしているものなど見せ方の違いはあるものの、やはり委員の皆さんに御指摘いただいた方向性が一般的だということは確認したところです。しかしながら、震災・原発事故というほかの地域よりも複雑な課題を抱える本県の将来の姿の実現を考えたときに、県内でその姿をわかっていただくことがまず重要であり、同時に、国内外の方にもわかっていただくことが必要なのではないかと考えました。そうしたときに、先ほどの25 ページ目にお示した「ひと」「暮らし」「しごと」をベースとした将来の姿をSDGsというフィルターを通して見たときにどうなるのかを表すことには、以下のような意義があると考えます。

まず、1つ目の意義としては、26 ページ目にありますが、「多様な主体との連携・協働」についてです。特に県外で関心を持たれている方に、福島の現状だけでなく将来の姿を御理解いただき、連携に結びつけるときに活用できるのではないかと。また、折しもこの3月には大学生や高校生が中心となって独自の福島に関するSDGsレポートをまとめたということも聞いております。小中学校でも授業でSDGsを取り上げることが当たり前になっているということをお聞きすると、県内における世代間での理解にもつながる可能性があると考えております。このことは震災・原子力災害からの復興という長く前例のない取組と厳しい人口減少に対応する地方創生の難しい取組の両方を進めていかなければならない福島の後押しの一助になるのではないかと考えております。

もうひとつの意義として、市町村における活用です。県庁におりますと、人口減少とは183万人という大きな数の減という感覚になりがちですが、市町村においては、具体的に空き家が増えたとか、町内会の人数が激減しているとか、人口減少の危機感をより多く受け止めていると考えております。こうした市町村が課題解決を考える際の新たな切り口として活用できるのではないかと考え

ております。

この2つの意義をまずは確認させていただいた上で、2030年までの9年間を見渡した際に、先ほども申し上げました震災・原発事故や風評・風化など特殊な事情への対応と、急激な人口減少への対応を進めることはもとより、頻発・激甚化する災害など全国共通の課題へも着実に対応していくほかの県にはない難しさや複雑さを踏まえ、引き続き本県に心を寄せてくださる国内外の多くの皆さんと連携を深めるということ、また、社会が抱える普遍的な課題に照らして県づくりの方向を示すということ、この2つをSDGsという世界の共通言語に照らして本県の将来の姿を整理して、本県の目指す将来の姿の実現につなげてまいりたいと考えたところです。

そのような考えのもと、「ひと」「暮らし」「しごと」の分類との整合性を図りながら将来の姿を描いたものが28ページ目と29ページ目になります。それぞれの将来の姿につきましては、明確に「ひと」「暮らし」「しごと」に分類できるものではなく、それぞれの分野にまたがるものとはなりますが、より関連性の強い分野に整理したところです。

また、見開きにしておりますのは、将来的にこの1枚で、さまざまな場面で、県庁としてだけでなく、県民の皆さんにも、市町村の皆さんにも、福島のことを語る際に使えるのではないかと期待しています。また、文章表現についても、あまりふわっとさせたものではなくて、できるだけ現在の課題が見えるようなものとして工夫したところです。SDGsと将来の姿については以上です。

続きまして30ページ目、こちらは「避難12市町村の目指す将来の姿」です。岩瀬委員からもございましたが、参考という形で表題の部分を修正させていただいております。

31ページ目です。こちらは前回の部会で岩瀬委員から「本県ならではの復元力・レジリエンスを掲げることが重要」と御意見を頂いた部分です。岩崎委員からも以前の部会で御意見を頂いたところです。

福島ならではのレジリエンスについては、ハード部分の復旧のみならず、コミュニティの再生など、人と人のつながりによって得られるレジリエンス、こちらでは回復力と記載しておりますが、これが培われていることだと考えております。こちらは県づくりの理念の部分で掲げさせていただいたところです。

続きまして、33ページ目です。第4章として、県が取り組む各分野の政策・施策に関する部分となります。34ページと35ページについては、各分野の政策・施策に横串を刺すものとして、総論の部分に記載するページです。「頻発化・激甚化する自然災害への対応」「新型コロナウイルスへの対応」「地球温暖化対策」と「デジタル変革(DX)の推進」の4つを掲げております。DX以外の部分は現在作成中であり、今回はDXの部分の概要を説明させていただきます。

35ページ目の「デジタル変革(DX)の推進」について御説明します。基本理念として、「県政のあらゆる分野において、将来の仕組みや仕事の進め方を、既成概念にとらわれず、県民目線で見直すとともに、デジタル技術やデータを効果的に活用し、新たな価値を創出することで、復興・創生を切れ目なく進め、

県民一人一人が豊かさや幸せを実感できる県づくりを実現する」こととして掲げております。

また、基本目標としては2つ掲げており、1つ目が「行政のデジタル変革(DX)」で、職員の意識改革と行動変容やデジタル県庁の実現を目指すものです。2つ目が「地域のデジタル変革(DX)」で、県民や企業へのデジタル変革の浸透、それからスマートシティ等の先進的なまちづくりを掲げております。

また、これらを進めるに当たってはデジタルデバイド対策、情報セキュリティ対策も同時並行で進める必要があると考えております。こちらは現在、県庁内でデジタル変革推進基本方針の策定作業を進めており、今後、そちらと整合を図りながら内容を精査してまいりたいと考えております。

36ページ目以降については、前回から変更しておりませんので、説明は省略します。資料1の説明は以上です。

次に、資料2「政策分野別の主要施策・指標の考え方について」です。あわせまして、参考として、前回の部会で御覧いただきました資料も配付させていただいております。改めまして本日はこちらについて十分に御議論いただければと思っております。

前提として、この資料については、現時点においても各部局とやりとりをしているものであり、固めきったものではございません。本日、我々としましては、質疑もさることながら、県民生活や県の将来といったさまざまな視点において大所高所から足らざるを満たしていく、あるいは足りていると思われるものもよりよいものにするという観点で、例えば、「なぜこの施策や指標になっているのか」といった疑問の裏には、必ず「こういう施策や指標も大事なのではないか」ということが伴っていると思いますので、ぜひ御提案いただければ非常にありがたいなと思っております。

資料2の表紙については、第4章の政策分野別の主要施策と指標の考え方と骨格についてまとめたものです。1「政策分野別の主要施策」に記載しているとお、「ひと」「暮らし」「しごと」の各分野に政策、施策、取組を位置づけて、将来の姿の実現に向けて各種施策を推進してまいりたいと考えております。政策の体系イメージ図は右の図のとおりですが、この図については当然理解しておくべきと考えていますが、どうしても単年度で取組につながる具体的な事業を考えていくと、そもそもの政策の達成ということが曖昧になってしまう傾向がありますので、今回の計画においては職員一人一人がこの構造を意識し続けるように掲げてまいりたいと考えております。

次に指標について御説明申し上げます。計画を着実に推進するためには、PDCAサイクルのC(Check)において、客観性の有する数値、すなわち指標によって県の取組の成果を確認する必要があると考えております。このため、指標については、各政策、イコール目標ですが、各政策の達成度を県民の皆さんにわかりやすく、具体的かつ客観的に測定することが重要だと考えております。このことから、指標については、政策イコール目標ですが、それと指標が示す成果・結果が一致しているかどうかの観点により設定しております。

その際、指標を4つの種別によって整理しております。1つ目は代表指標です。こちらは政策の成果との関連性が高く、成果を定量的にわかりやすく示す代表的な指標と考えております。2つ目は一般指標です。政策の成果と関連性があるが、成果のわかりやすさを補足的に示す指標です。3つ目はモニタリング指標です。こちらは目標値の設定は困難ですが、毎年、状況を把握して公表することが望ましい指標です。最後に県民意識調査で、こちらは県の施策に関連する項目で定量的な測定が困難なものについて県民の意識を定性的に把握するものです。

それぞれの具体例は下段の中央に記載しています。例えば、「全国に誇れる健康長寿県へ」の政策であれば、代表指標は「適正体重を維持している者の割合」「メタボリックシンドローム該当者の割合」「健康寿命」などとなると考えております。一般指標につきましては「週1回以上運動をする成人の割合」「がん検診受診率」などになると思っています。モニタリング指標としてはこの政策では該当なしとなっていますが、意識調査項目としては『生活習慣病などの対策のため、健康診断を受診している』と回答した県民の割合」としたところ です。

それぞれの指標の関係性についてイメージしたのが右の図で、政策目標がどのような状況にあるか、さまざまな指標できめ細かく把握していくものだという事と、もうひとつは、それぞれの指標が重なり合っているように、1つの指標が動けば別な指標も動き得るものだという事を示したものです。これを取組側から見ますと、一見、関連しないと思われる取組同士が同じ指標に影響を及ぼしていることを理解するという事になり、その取組同士を連携させることによって相乗効果を生むこともあり得ると思っています。要は、横串を刺す、あるいは組織の総合力を発揮するという事を意識した運営にもつながっていくと考えております。それだけではなくて、この枠の外にあると思っていますが、県庁だけでは解決できないような外的要因も指標には影響を与えると考えております。

こうしたことを踏まえ、もう一工夫が必要かと考えています。一方で、2次元ではなくてもはや3次元的になるとも考えており、引き続き研究してまいりたいと考えているところでございます。

1ページ以降ですが、次期計画に記載する政策、施策、取組の関連指標の資料です。なお、先ほど参考として紹介した前回の部会でお示したものを網羅的に示したものになっております。

1つだけ説明しますと、1ページの表の左側から、分野、政策、施策とその説明、取組とその説明という形になっております。「ひと」分野の「全国に誇れる健康長寿県へ」という政策には、「若い世代から高齢者までライフステージに応じた疾病予防」「食、運動、社会参加による健康づくり」「高齢者の介護予防の強化」「東日本大震災・原子力災害の影響を踏まえた健康づくり」という4つの施策をひも付けております。

それぞれの施策に主な取組を3つほどひも付けております。例えば、「若い世

代から高齢者までライフステージに応じた疾病予防」については「生活習慣病対策に関する取組」「がん検診に関する取組」「食育に関する取組」となります。表の一番右側には左の政策の関連指標と意識調査項目についても記載しております。

以降、「ひと」分野では5つの政策、「暮らし」分野では6つの政策、「しごと」分野で6つの政策ごとに同様の構成で記載・作成しております。

資料2の説明は以上です。

どうもありがとうございました。課長から説明していただいたことに関してどのように議論を進めたいかということを考えていましたが、私の理解では、今、説明していただいたことは大きく3つあると思えました。1つは、前回のSDGsに関するさまざまな皆さんからの御意見を踏まえて修正したSDGsと将来の姿に関する部分。それから2つ目は、今、最後に御説明があった、特に資料2を中心とした主要施策や指標に関すること。それから3つ目は、デジタルが典型ですが、前回の部会から新たに入ったことや前回までの御意見を踏まえた修正といった、大きく3つがあると思えました。それを順番にやっていってはどうかと思えました。

まず1つ目は、SDGsに関して、前回さまざまな御意見を頂いて、その御意見を踏まえて修正したのが特に26ページから、典型的には28、29ページの図面ですが、そのような整理でいいかどうか、まず確認ができればと思っております。

前回、さまざま御意見を頂いた中で、岩瀬委員から特に多くの御意見を頂きました。このような整理でどうかということでは先ほど事務局から説明いただいたのですが、御意見や御質問、感想でも何か頂ければありがたいと思っております、いかがでしょうか。

ここに関しては、まとめ方は非常に適切だと感じております。ただ、流れがあるので少し指摘させていただきたいのですが、24ページで「みんなで創り上げたいふくしまの将来の姿」を、青字で囲んである『ひと』『暮らし』『しごと』が調和しながらシンカ（深化、進化、新化）する豊かな社会」として、次のページで「ひと」「しごと」「暮らし」をもとに分類していただいているんですが、これも言葉としては将来の姿なんですね。

24ページで言っているのは、これがみんなで創り上げたいふくしまの将来の姿の基本ではないのかなと思えました。その具体的なイメージが右の25ページの表記で、ここに非常に詳細に3つの分類の中で記載をされている、これがふくしまの将来の姿の具体的なイメージを記載されているのかなと感じました。ということで左のページの呼び方を「ふくしまの将来の姿の基本」と変えられたほうがいいかなと思えました。

なるほど。「将来の姿の基本」と直したほうがいいのではないかといいですか。

ええ。もしくは、25ページ目は「ふくしまの将来の姿の具体的なイメージ」とか両方でもいいですが。何かそういう分類があるほうが、読んでいて、見て

川崎部会長

岩瀬委員

川崎部会長

岩瀬委員

川崎部会長	<p>わかりやすいなと感じました。</p> <p>左側、24 ページは「こういう社会、将来の姿を目指すのだ」と言っていて、25 ページは事務局案にあるとおり、「ひと」「暮らし」「しごと」がシンカした社会というのはどういう社会なのかということ、『ひと』『暮らし』『しごと』ごとの」と書いてありますから、それぞれにシンカした姿というのはこういう感じなんだということがそれぞれ書かれている。内容とか構造ではなくて、ぱっと理解できるような形の言葉に変えたほうがいいのではないかとことですよね。</p>
岩瀬委員	<p>部会長がおっしゃるように、詳細度が少し違いますので。右のほうが非常に具体的なイメージのことをおっしゃっているので、ページの読み方を変えられたほうがいいかなと思いました。</p>
川崎部会長 西崎委員	<p>わかりました。西崎委員、県民目線ではそのほうがわかりやすいですか。</p> <p>SDGs の 24 ページから 29 ページまでの流れが少しわかりにくいと私も感じていて、岩瀬委員がおっしゃっていたように、最初は基本の大きな部分、土台というのがこの部分なので、タイトルを変えたほうがいいのかなというのは私も同意見です。</p>
川崎部会長	<p>あとは 25 ページの図と 29 ページの図が、SDGs の観点から見たものとそうではないものになっていますが、ビジュアル的に同じなので、何か繰り返されているようなイメージもあるというのが流れとして気になりました。</p> <p>そうですね。課長の説明で、28、29 ページの中には、特に本県の課題になっているものを中心に取り上げたという御説明があったと思いますけれども、確かに重なっていることは重なっているもので、その辺の流れがぱっと見て理解できるようなものになっているかどうかという、もう少し工夫の余地があるのではないかとことですよね。</p>
西崎委員 川崎部会長 岩瀬委員	<p>そうですね。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>もう 1 点ですが、先ほど申し上げた流れのもとでの 28、29 ページの SDGs ですが、ここに記載されている項目は必ずしも先ほどの前の 25 ページに書かれている内容とは一致せずに、むしろ SDGs の視点で多くのことを書かれています。例えば、水素エネルギーの話や左にある猪苗代湖の水質保全の話は前には載ってきていないので、おそらく事務局はよく考えられていると思うんですが、SDGs の視点に立って、それを補う形で 28、29 ページは書かれていると思いますので、そこは私は適切だと思います。</p>
川崎部会長	<p>ただ、「ここと前のほうが一致しないのはなんでなの？」というような疑問を普通は持たれると思いますので、「SDGs の視点による将来の姿」というのを、この 28 ページ、29 ページに大きくタイトルで付けるべきと思いました。この 28、29 ページの一覧表はあくまで SDGs の視点で将来の姿を書かれているものなので、25 ページよりも多くをカバーしているということだと思いました。</p> <p>わかりました。おそらく構造的な問題として SDGs をどう位置づけるかなんだと思います。今日出された案だと、まず将来の姿があって、それぞれ「ひ</p>

と」「暮らし」「しごと」ではどういう姿かというのが25ページで展開されていて、いったん将来の姿を出したあとにSDGsというフィルターを通したときにどう映るかということ、26ページから29ページまででやっているのが少しわかりづらいのではないかという話ですね。それがいいのか、24ページの将来の姿を出す上で、これまでの課題などを含めてSDGsを並べてこういう姿なんだと示すのがいいのかどうかということだと思います。その辺はどうでしょうか。

復興・総合計画課長

前回、議論の中で、県の課題とSDGsの課題を一緒くたにしないほうがいいだろうということがありました。そこで考えたのが、やはり県の課題、今、岩瀬委員がまさにおっしゃったように、実はまとめてしまっているというのが今の原因のひとつにあるんですが、まず、県としての課題、要は県として目指す将来の姿の課題が「ひと」「暮らし」「しごと」でありますよね。それをSDGsというフィルターを通して見たときには、さらにここから17の項目に分かれていく。要はそういう、虫眼鏡のようなものがあって、それを見たときに「なるほど。県の課題はこういうふうに結びついているのね」というふうにしたい。

そういう意味では、岩瀬委員の御指摘がまさにそのとおりのんですが、28、29ページに書かれている課題が、この25ページに書いてある課題とイコールになっているというのが基本的な考え方になると思っています。これをまとめているのがわかりにくいのかもしれないので、そこを工夫する余地はあると思っています。

ただ、分解したときに、1つの事象が2つに分解されることもありますので、そこはもう少し工夫させていただきたいのですが、意図としては同じものをさらに17に分割していったらどうなるか。我々県が言うと、どちらかといえば、この25ページ目の整理のほうがわかりやすいと思っています。ただ、これをもって、世界の人と交じりあおうとか、あるいはアテンドしたときに「では、福島県は男女平等とかどうなの？」といったときに、「SDGsのこういうところで、こういうふうな課題を持って、こういうふうなことを目指しているんだ」とすぐに言えるだろうなと思って整理したんですね。こういう整理をしているところはおそらくなくて、同じものをどう見ているかということですね。

川崎部会長

今、岩瀬委員と西崎委員から、内容そのものではなくて見せ方について、ぱっと県民が読んだときに、なぜ同じようなことが微妙に違って書いてあるんだろうという印象が持たれてしまうので、見せ方、表現の仕方を工夫すべきではないかという御意見でした。

復興・総合計画課長

そうですね。25ページ目が見開きで整理されていると、ほとんどそこにフィルターがかかって28～29ページになるというイメージなんですね。

川崎部会長

おっしゃっている趣旨はみんな共有できていると思いますので、また少し工夫してください。

復興・総合計画課長

そうですね。ここは工夫のところだと思います。ありがとうございます。

川崎部会長

ほかに、今日、参加していただいている方で、このSDGsに関して何か御意見、御質問がありましたらお願いしたいのですが。よろしいですか。今、岩

瀬委員と西崎委員がおっしゃったことの趣旨を踏まえて、1カ月後ぐらいにもう一回部会があると思いますので、そのときまでには修正していただいて、さらにわかりやすい形に修正案を出していただければと思います。それでは、SDGsに関してはこれでよろしいですかね。

それでは、大きな議題の2つ目でいうと、資料2です。佐藤課長の御説明では、指標というのはどういうものなのか、どういう構造になっているのかという御説明と、1ページ目の「全国に誇れる健康長寿県へ」に関する御説明をいただいたわけですが、この資料は23ページまであって、政策が1-1から始まって、全部で17あります。たくさんあるので、これを順番の一つ一つというよりは、皆様が御専門だったり知見が深いところ、得意なところもいろいろあると思いますので、関心あるいは御専門のところに関しての御意見でもいいですし、全体的な構造に関する御意見でもいいので、この資料2に関して今日は比較的長い時間を使って議論できればと思っております。

事務局からは、この代表指標、ここの指標の置き方についてもどうなのかというように、場合によっては、むしろここに書かれている指標よりはこういう指標のほうがいいのではないかという提案も含めて御意見いただければという御説明がありました。どこからでも御自由にお願ひできればと思います。

では、岩崎委員。何か全体を俯瞰してでも構いませんし、この政策に関してでもいいですし、あるいはピンポイントでこの指標についてという意見でも結構です。

岩崎委員

5ページの「男女共同参画社会の実現」のところの指標なんですが、やはり、これまでいろいろ女性の参画が世界的に見ても日本は非常に遅れていると指摘されていて、では、福島はこれにどう取り組んでいくのかというすごく目玉になる大事な施策になってくるんですが、それを特定する指標が意識調査しかないというのが物足りないと思います。例えば、国でやっている男女共同参画基本計画では、女性の管理職のいろいろ幅広い指標が挙がっているので、その辺をもう少し研究して、代表指標やモニタリング指標などにしてもらえるといいのではと思いました。

それから、もうひとつ。6ページの1-5-1、「関係人口の拡大」のところですが、「ふくしまファンクラブの新規会員数」などの代表指標や一般指標があり、それから移住にかなり重点が置かれていますが、関係人口そのものをどういう形で増やしていくのかという指標がよくわかりません。

民間の調査機関、シンクタンクで、関係人口の意識調査をやっていて、その結果を見ると、福島県は関係人口が多いという結果が出たというのを見まして、福島県というのは震災・原発事故を経て、県をぜひ応援したい、移住まではできないけれども県に少しでも協力したいという人たちは結構たくさんいて、その結果、福島県は関係人口が非常に多いという結果が出たりしているので、もう少しここをきめ細かく測定できるような指標を御研究いただけないかなと思っております。

以上です。

川崎部会長

ありがとうございます。大きく2つで、男女共同参画の指標が意識調査しかないのが少し寂しいので、もう少し国の計画なども参考にしながら、もっと定量的なものを入れたらどうかという話と、6ページの関係人口に関するダイレクトな指標がないので、福島県では都道府県別に見ると全国でナンバーワンにもかかわらず、もっと適切な指標の取り方があるのではないかという御意見でした。岩崎委員からこういう指標がいいのではないかというのは何かありますか。

岩崎委員
事務局

考えて、あとから提出します。

事務局から補足の説明をさせていただきます。岩崎委員が御指摘の男女共同参画のところをひもときながら説明を加えます。資料2の5ページ、1-4-3の「男女共同参画社会の実現」を示していただいたんですが、この表の見方を少し解説させていただきます。前回の3月23日にお配りした資料を脇に置きながら解説を加えます。

これは、3月23日の資料ですと、「男女共同参画社会の実現」については2ページ目の上段の政策の4番「誰もがいきいきと暮らせる県づくり」にひも付く施策の③になります。その下に括弧書きで「女性の意思決定過程への参画の拡大」や「家庭や地域での男女共同参画の推進など」と書かせていただいたのが前回ですが、これを補足すると、政策4「誰もがいきいきと暮らせる県づくり」には施策が4つひも付いていて、括弧書きが取組の例です。その下に書いてある指標の想定というのが、前回だと「県の審議会等における委員の男女比率」「自殺者数」「心の健康相談ダイヤルへの相談件数」などとさせていただきました。指標については政策ごとに掲げさせていただきたいと考えております。

今日の資料に戻りますが、岩崎委員に御指摘いただいた5ページは4ページからの続きになっておりまして、わかりづらくて大変申し訳ございませんでした。政策ごとに指標を掲げていきたいと考えておりますので、ここの指標というのは、代表指標でいきますと「県の審議会等における委員の男女比率」で、これは毎年度調査していて、公表までに4カ月程度時間がかかる指標です。この場合は一般指標はないですが、モニタリング指標として「自殺者数」や「障がい者差別解消相談件数」を考えています。そして5ページに続いて、補足する意識調査項目としてはこの2つを考えております。最上段の、政策単位で指標を考えていきたいという補足説明ですので、5ページだけピンポイントで見ると、意識調査項目が2個しかないと見えて大変申し訳なかったですが、前回の3月23日の資料を脇に置きながら見ていただくとイメージが湧きやすいかと考えます。

補足でした。以上です。

川崎部会長

私も誤解しておりました。岩崎委員、前者の意見については、意識調査だけではなくてほかの指標があるということですね。

岩崎委員

御説明をありがとうございました。わかりました。でも、やはりもう少し県の審議会の女性割合だけではなくて企業での女性登用率など入れるべき指標はほかにもあるので、御検討いただければと思います。

川崎部会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>横田委員、今の関係人口でもほかのことでも何か御意見はありますか。</p>
横田委員	<p>私は、このやり方のほうが慣れているからかもしれないですが、すごく見やすいです。</p> <p>また数字の話で恐縮ですが、おそらくここが大きな数字になって下に下りていくんだと思うんですが、それより少し別の話で、P D C AのCが大事というお話を先ほどされていたんですが、私はAが大事だと思っています。Check して、次にどうするかというところがきちんとしていないと何も変わらない。Check で終わってしまうことが多いというのが一般企業でも結構あるんですね。Cで終わらないところをきちんとしていただけるといいなと思っていますが、そこはどこかで表せないのでしょうか。Check して終わりといったら、数字で「達成しなかったね。終わり」だけではなくて、「では、達成するためにどうしよう」というところも福島県は一生懸命やるんだよというのが見えるといいなと思います。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。現行のやり方を振り返りますと、毎年、P D C Aサイクルを回して、Check をして、Action をしていくという建て付けにしております。この県の審議会の場を使いまして、毎年、進行管理の御説明をさせていただいていますが、その中で、昨年も岩崎会長から方向づけをいただいて、それに沿って、県は事業化、予算化をして翌年度の事業に反映させていると御説明させていただいています。まずはそれが基本的な考え方です。</p>
横田委員	<p>そのやり方について、第6章に掲げているんですが、そういった一般論にとどまらず、より Action をきっちり起こすべきだというのが横田委員の御指摘なのかと受け止めました。そういう理解でよろしいですか。</p> <p>はい。審議会の数字は、確かに危機管理部の会議でも数字が出てきて「実際、こうでした」という話を聞きますが、「では、どうします」とは出ないではないですか。おそらく、そのあとにどこかで出ているんだろうとは思いますが、ただ、やはり目標数字などを掲げるからにはやらなければいけない。「今回、本気でやります」というところも必要だと思いますし、人口、農業、関係人口にしても、目標数字をつくったからにはまめな Check をきちんとして、それをみんなが共有することが必要なのではないかなと思うのですが、いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。事務的な話をすれば、常に事業化は考える必要が当然あって、予算が伴えば補正予算を組んで実行する。ただ、そういったことも含めて、より効果的な事業を展開していくということがやはり大事です。あとは、これまで御助言いただいているのは、県で1回始めるとなかなかやめられないという事情もあると思っているので、そこをしっかりと指標で評価をして、効果を検証して、やめるべきものはやめる、さらに力を入れるものは入れるというふうにメリハリをつけていく必要があるということで、このP D C Aサイクルの回し方についても、今、ゼロベースで見直そうとしております。</p>
復興・総合計画課長	<p>今、横田委員から指摘があったことは、私も県職員が長いものですから悩ん</p>

	<p>で、なかなか変えられないところがありますが、でも、企業立地が半年やっても進んでいない、では、どうするんだということで、予算を変えるときに、9月補正で予算を取ってという11月ぐらいからしか動けないので、本当に取れる予算については、そこを変えていかないとなかなか柔軟な対応はできないと思います。1年に1遍だったら遅すぎるというのは同感です。</p>
川崎部会長	<p>この指標というものが結局、毎年度行われている総合計画の進捗状況のメジャーメントになるわけです。だからすごく大事な意味を持つ。</p>
事務局	<p>今は、その進捗状況については審議会で何月にやっているんですか。</p> <p>例年ですと7月頃にやっています。その結果を当初予算に反映させるために、審議会から御意見を頂いて、検討して方針を定めて予算編成に反映させるというのが一般的な流れです。</p>
川崎部会長	<p>そうだとすると、横田委員や石井委員がおっしゃったのは、時期的にはいいけれども、もう少しきめ細かくということでしょうか。</p>
横田委員	<p>これは1年後の7月なので、途中の時点ではないです。途中の7月ではなくて、終わってからの7月です。</p>
事務局	<p>横田委員がおっしゃるとおりで、年度が終わって、新しい年度に入って前の年の振り返りをしているような形になっています。中には、その指標の早くわかるもの、統計ものの中でも比較的早く結果が出るものについては、なるべく最新の時点で修正をして審議会に報告しています。</p>
	<p>少し補足しますと、今回の資料2で指標を掲げておりますが、調査周期というのを今回情報として入れさせていただきました。まさに石井委員のおっしゃるように、県議会からも四半期ごとの振り返りができないものかという投げかけをいただいております。でも、指標を見ていただくと、毎年度というのがやはりどうしても多いんですね。ただ、例外的に毎月取っているというのものもあるんですが、行政として施策を打っていくときに、やはり数字、エビデンスをもとに事業構築をしていくのが一番効果的だと思うので、1年単位の調査よりもっと小回りが利くバックデータのようなものがたくさん集められれば非常に実効性のある計画になっていくのだろうというのは前提としては認識しています。</p>
横田委員	<p>今、国からは事業着手から締めるまでの間にどれぐらい進んでいるかという途中報告というのが結構出ています。おそらく、そういうのを癖づけてしまえばできるのかなとは思っているので、せっかくこの総合計画のスタートなので、やらないよりはやれる方向で御検討いただければ大変助かります。</p>
川崎部会長	<p>PDC Aのあり方をPDC Aする必要があるという御意見でした。どこまでできるか、この部会そのものがどこまで踏み込んで議論すべきかというのもまたあると思いますが非常に大事な御意見です。ありがとうございました。</p>
岩瀬委員	<p>ほかにいかがでしょうか。岩瀬委員、お願いします。</p> <p>今、部会長がおっしゃった、この総合計画をある意味評価するために、この代表指標等の適正さが問われるというお話がございましたが、今回、ここで議論しているのは項目であって、これにどういう計画値を入れるかというところ</p>

川崎部会長	<p>の話は入っておりません。産業系だと「製造品出荷額等」などに、どういう目標値が設定されるかが入っていないので、今回、この審議会部会として、項目の論理性をアセスすることをやってくさいと言われていたのか、それとも目標値ができてきて、これで年度ごとに評価を行うことについてなのか、そのところがわからなくなったんですけれども、いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>それについては、資料2が資料1のどこに入るかというところと36ページ以降になります。そうすると、今、我々が議論している資料2が、今回の議論を受けて修正すべきところを修正した上で、次回、1カ月後には37ページ以降に流れ込んでくるはずと私は思っています。37ページを見るとフォーマットしかありませんが、今日、指標を改めるところは改めた上でですが、「指標」の「現状」「目標」「備考」とあるので、次回は数字で表せるものは数字として出てくると思っていますが、そういう認識でいいですか。</p>
川崎部会長 岩瀬委員 川崎部会長	<p>37ページをお開きいただけますでしょうか。素案の枠のみ示している状況ではありますが、基本的な情報として、政策1として「全国に誇れる健康長寿県へ」があります。その政策の背景などを文章で5～6行書いています。そのあとに写真やバックデータの図のようなものを入れたあとに、指標の枠を入れたいと思っています。</p> <p>ここに入る指標は、事務局としては代表指標を持ってきたいという意味で「代表」という言葉を使っています。ここにはたくさん入れるイメージは事務局としてはなく、あくまで代表的なものを入れたいと考えています。今、部会長がおっしゃる「目標」という欄も設けています。次回はここに入れ込みますが、目標についてはより部局との調整が必要になりますので、現時点で示せる時期を明確にいつとはまだ言えない状況です。そのため、岩瀬委員の御質問に対しては、まずは部会としては項目出しまで、特に代表として第4章に入れ込んでくる指標はどのようにあるべきなのかという御意見をいただければありがたいです。</p> <p>岩瀬委員、いかがでしょうか。</p> <p>ありがとうございました。状況を理解いたしました。</p> <p>先ほど石井委員から出された、16ページに関する御意見ですが、政策でいえば、3-1は「産業の持続的な発展」の部分が福島県全体で、そして「福島イノベーション構想の推進」という部分があります。指標は、代表指標でいうと「製造品出荷額等」から始まって3つほどあります。ただ、イノベーション構想というのは浜通り地域の話と全県的な話が2つ大きくあるので、分けて指標を設けたほうがいいのではないかという御意見だと思います。</p> <p>事務局の御説明ですと、政策の単位で代表指標などを設けて記載したいという案があったわけですが、では、どの単位でこの代表指標などの指標を設定したほうがいいのかという議論にもつながってくると思います。事務局としては、一番大枠のこの「政策」という欄で指標を設けたい。もしかすると、石井委員がおっしゃったのは次の「施策」という単位で打ち出したほうがいいのではないかという話もある。あるいは、その政策の種類や、内容によって分けるもの</p>

石井委員（代理）	<p>と分けられないものがあるかもしれないという考え方がいろいろあると思います。その辺についてはどのように考えるのがよいか、石井委員、いかがですか。</p> <p>「しごと」の分野というのであればこの代表指標でいいと思いますが、3-1の政策の中でどう評価するかというときに、今の指標でいくと、福島イノベーション・コースト構想はどうかというと、「福島イノベーション・コースト構想の重点分野における事業化件数」と、モニタリング指標ですが、この「事業に協働して取り組む」というのは何の事業だかよくわからないですが、これしかないわけです。福島イノベーション・コースト構想がどれだけ浜通りに貢献しているのかという話はこの指標を見ても出てこない。産業であれば、うまくいって売り上げが伸びたとか雇用が伸びたという話がないと成果にならないですが、その指標が全体しか出てこない。そうすると、もう少し分けて見ないと本当に福島イノベーション・コースト構想がどうだったのかという指標になっていないと思います。</p>
川崎部会長	<p>あと、全体的な把握は代表指標で、県全体で出荷額が伸びたかどうかというところで説明できるだろうし、この中の項目が出るわけですから、この産業分類の項目で、この辺を見ているというはある程度わかってくるんだと思うのですが、全体とある地域を特定しているところがわかりにくいのかなと思います。</p> <p>なるほど。石井委員がおっしゃっている趣旨は、ほかの政策についてはともかく、イノベについては一大プロジェクトであることは間違いないので、ほかは政策単位でやってもいいかもしれないが、これに関してはイノベはイノベで起こしたほうがいいのではないかと御意見だと思います。ただ、それがエンドのほうから考えると、その単位で指標が設けられるかどうかという話もあるのではないかと思います。でも、大きなプロジェクトなので、できないのであれば、それを今後、県で調査すべきだという話にもつながってくるかもしれません。趣旨はわかりますし、おっしゃっていることもなるほどと思いました。</p>
事務局 川崎部会長 事務局	<p>代表指標だけを載せるということは、一般指標などはどこに載せるのですか。指標一覧を別途設けて、後ろのほうに載せたいと考えています。</p> <p>後ろというのは総合計画の資料編とかそういうところのことですか。</p> <p>素案の4ページに目次を書いています。第6章の先に資料編という部分を設けており、こちらに指標一覧を掲げていきたいと思っています。ですので、代表指標、一般指標、モニタリング指標、あとは意識調査項目を、ここに網羅したいと考えています。</p>
川崎部会長 横田委員 事務局 横田委員	<p>なるほど。横田委員、お願いします。</p> <p>その指標の目標は各課でつくるのでしょうか。</p> <p>はい。各部局にお願いしています。</p> <p>たまにですが、丸投げという目標が挙がったりします。目標は大事なので、厳しめにチェックをお願いします。</p> <p>それからもうひとつ。総合計画の素案など、資料の言葉が統一されていないと、略語になったりとか、例えば「福島イノベーション・コースト構想」が途</p>

	<p>中で「イノベ関連」や「イノベ構想」になったりしていますが、やはり一番重い資料なので略さないほうがいいのではないかなと思っています。あと、できれば各課もこれからいろいろつくるときに同じ言葉を使うので、福島県として、この言葉は略さないというルール付けをして、今回で統一していただければと思います。資料を見てきちんと統一されているというところをやはり見られると思うので、お願いいたします。</p>
川崎部会長	それは当たり前のことですのでお願いします。
復興・総合計画課長	はい。もしもどうしても略す場合は、こういうふうに略しますという凡例などをきちんとしたいと思います。
川崎部会長	松澤委員、何かありますか。
松澤委員	私が興味・関心があるところを見ていくと、2つあったんですが、14ページの「過疎・中山間地域の持続的な発展」の部分の指標に対して、左の取組説明はこのとおりだなと読んでいたんですが、その右の指標がこの政策に対する指標として測れるのかすごく疑問に思いました。
川崎部会長	松澤委員はこういうことにお詳しいと思うので、こういう指標だといいいのではないかという何かあれば、その辺までいただければと思います。
松澤委員	まず代表指標の「地域おこし協力隊の定着数」はいいと思うんですが「観光入込数」や「すれ違い困難箇所の解消」というのはどちらかというハードですよね。ここに入ってくることなのかというのがあります。それから、過疎・中山間地域のワーケーションや関係人口をつくっているのであれば、関係人口に関する指標を持ってきたほうがいいのかないかなと思いました。すみません。指標はここで今まだ出ないんですが。
川崎部会長	またそれは事後意見でもいいと思います。
松澤委員	もうひとつが9ページの災害のところなんですが、インフラやハード関係の整備を適切にすることで災害対策を行うという内容になっていますが、森林や河川などの周辺環境の適切な整備、森林整備や山間地域の整備促進なども災害のところに入れていただきたいと思いました。
川崎部会長	ありがとうございます。
前澤委員	ほかに。前澤委員、何か御意見はありますか。
前澤委員	本日、いわき市でコロナの感染拡大があつて、公共施設は1カ月ぐらいストップ、仕事をしている人もかなり不安です。2年越しでこのような状況なので、計画どおりに、ここに挙がっている計画どおりに追いついていくかという不安がありまして、立派な素案があつても、追いついていけるのかなと今日思いました。
川崎部会長	人が集まるようなイベントなどそういう行為をしないようにということで、先日の緊急事態宣言のような状況になりました。そうすると、昨年度からもう2年目なので、そのような状況で県の計画に市が追いつくのか、県民・市民が追いついていくのか少し不安になりました。
川崎部会長	どうもありがとうございます。
川崎部会長	先ほど松澤委員がおっしゃった過疎化、持続可能な集落づくりに関連して、

私も指標がどうなのかと思うのが、例えば、1ページ目を見たときに、政策単位で指標を設けるときに「全国に誇れる健康長寿県へ」という政策の代表指標として「適正体重を維持している者の割合」「メタボリックシンドローム該当者割合」「健康寿命」がありますが、この代表指標というのは「全国に誇れる健康長寿県」がしっかりと実現しつつあるのか、そこに向いているのかどうかということ測る指標なので、「全国に誇れる健康長寿県へ」だったら、まず普通に考えられるのは「平均余命」などだと思うんですね。その上で、単に余命が延びればいいだけではなくて健康であったほうがいいので、若いうちから平均寿命を延ばすためにはメタボに気をつけましょうとか適正体重とかいうのは将来への備えという意味はありますが、政策単位で指標を打つときに、ダイレクトにこの政策と代表指標がリンクしていないイメージがあって、さきほど松澤委員がおっしゃったのはそういうことだと思います。

なので、代表指標の代表性がしっかり政策という文言とどこまでリンクしているのか、代表性というものがどこまで担保されているのかが少しわかりにくいところがあると思います。もちろんその裏側には、政策の文言の意味を適切に表せるような指標を打ち出し得ないというのもしかしたらあるかもしれませんが、ただ、今申し上げた「平均余命」などダイレクトに結びつくようなものは取れそうなのに、「メタボ」など間接的な変化球が出てきているのはわかりにくいという印象がありました。

なので、私も、事後意見になってしまうかもしれませんが、もう一回よく見直した上で、再検討の材料のひとつにさせていただければと思った次第です。松澤委員との関連で申し上げました。

今野委員、どうぞよろしくお願ひします。

SDGsの関係ということで、この指標の考え方だと、SDGsでいけばターゲットと捉えられるだろうと思うんです。この指標を設定することはターゲット目標ということになるんですが、SDGsはどちらかというとバックキャストで持ってくる目標ですね。このやり方はターゲットですから、フォアキャストで持って行って、今あるものを改善するという事なので、どうしても既成にとられるやり方になってしまいます。

例えば例を申し上げますと、資料1の17ページには「気象災害が頻発化・激甚化しており」という表現があります。これを受けて、例えばこの中でいうと54ページの観光分野の場合に、例えば国際会議やイベントを開いて、インバウンドをどんどんやっていくとします。実は私どもも連合福島で全国から3月にだいたい300人程度集まる行事がありますが、今、人を集めればコロナ対策は十分にやります。ところが、先ほども地震がありましたけれども、今、この会議で地震が起きたとき、建物内では誰が誘導するのかということそれは当然ながらこの会社です。皆さん、地元福島の方、県庁の方は当然、自分の部署に戻ることができる。しかし、インバウンドの方が観光していた場合、災害が起きたときにそういった備えが本当にあるのか。コロナ対策は十分だけれども、災害対策になった場合も考えると、既に関連するところばかりSDGsだが、災害は

今野委員

残念ながら起きており、これだけ余震があるわけです。単純に観光で人を呼べばいいのではなく、災害が起きた場合、その方たちを放り出すことは当然できないのだから、そういったことも別な視点として捉えることが当然必要なので、そういった考え方そのものが私はイノベーションではないかと思います。

ですから、SDGsの考え方は、まさにバックキャストिंगで持っていきながら、そこに新たな視点や方法論を加えつつ、そこに今度はターゲットというものを具体的に示していくことです。それは、どうしても時間軸もありますので、いっぺんには当然できないし、すべてを今やる必要もないので、そういう目標を掲げながらやっていく、進めていくということがまさにこの計画ではないかと思いました。

福島イノベーション・コースト構想についての意見が先ほどありましたが、単純に企業の生産だけが上がればいいのか。結果、そのことによって誰に利益があったり豊かになっていくのか。であるならば、当然ながら県民総生産や出荷額が上がることによって、例えば税収が増え、県民に還元されるとか、生活そのものの水準が上がったりとか、そういったものをいろいろと関連づけていくというのがまさにこのSDGsで目指す指標のつくり方ではないのかと感じました。

以上です。

川崎部会長

非常に大事な御意見だと思います。今野委員も事後意見でも構いませんので、こういうものがいいという御意見を一つ一ついただければと思います。ありがとうございました。

西崎委員、何か指標でも施策の全体でも構わないですけども、何か感想や質問があればお願いします。

西崎委員

ありがとうございます。いくつか私も関心のある分野について。まず、資料2の6ページの「ふくしまへの新しい人の流れづくり」についてですが、全体として、計画に基づいた施策、それに伴う取組を行われていくと思うんですが、それが末端にどう影響を与えられているか、どういう変化をもたらせているかというのをこの指標でしっかりと確認する必要があると思っています。例えば、6ページでいいますと、代表指標はこれでいいと思うんですが、一般指標は少し細かくなると、「ふくしまファンクラブの新規会員数」や「ふくしま暮らしサポーター数」がありますが、もう一步深掘りしたいと思いました。例えば、ふくしま暮らしサポーターがどれぐらいのサポート、相談に乗ったかというところまでいかないと、ふくしま暮らしサポーターは移住の仕事もしていながら、あまり目につくところがなく私自身もこの取組について知らないのも、末端にどれぐらい影響しているのかなというのが気になったので、もう一步深掘りした指標にするというのもひとつかなと感じました。

それから、具体的にもうひとつ、意識調査項目の移住・定住というところで、定住を測る指標がこれの中におそらくなくて、意識調査項目のところ、例えば実際に移住してきた人が住み続けたいと思えているかなどを私としては調べる必要があると思いました。感覚的には、住んでもまた出ていってしまう方

	<p>も一定数いらっしゃると感じているので、その部分をもう一度御検討いただきたいと思っています。</p> <p>それから、2ページの「結婚・出産・子育ての希望」ですが、一番根本となる「出会い・結婚」の指標をどこかに入れていただけたらいいというのがひとつと、出産の部分でも「産科・婦人科医師数」というのが一般指標に入っていますが、それも地域にかなり差があると思っているので、どうしたらいいか私もわからないですが、人口なのか、地域別なのか、割合という形で出したほうがいいのかなというのがひとつです。</p> <p>最後に、「子育て等に関する男女共同参画」という項目ですが、女性がいかに子育てしやすいか、社会復帰しやすいかなので、例えば「男性の育児休暇の取得率」などで、男性が逆に休みやすいとか、休んでもよくなったらなどは私は思っています。</p> <p>以上です。</p>
川崎部会長	<p>ありがとうございます。そうだなと思いました。</p> <p>指標というのは無数にあり得るはずですが、総合計画でいったんきっちり決めないといけないということです。なので、いったん総合計画を策定されるまでにしっかりしたものをつくらなければいけないので、今日に限らず、少なくとも5年見直しの中で、毎年これが指標となって進捗状況のチェックが行われる、非常に大事なものになっていくので、ぜひ皆さんから「これよりはこっちのほうがいいのではないか」とか、そういった意見も含めて後ほどでも御意見いただければと思います。今の西崎委員の御意見ももちろんいい指標だと私自身も思ったので、お願いしたいと思います。</p> <p>ほかに何かこの主要施策や指標に関して御意見がございますか。横田委員、お願いします。</p>
横田委員	<p>後ろに付く指標はどこかのタイミングで私たちは見ることができるんですか。それとも完成した状態でしか見られないですか。</p>
事務局	<p>資料2の1ページにありますとおり、全体でその政策を示すということですので、資料編に入れるか、本編の後ろのほうでまとめて見せるかということでも含めて検討しているところです。本編にまとめて見せるということであれば、当然、委員の皆様に見ていただくこととなりますし、資料編になりますと、議会で議決が終わったあとに資料編を整えていくので、最終的に冊子版になった場面で皆さんに見ていただくという形もありうると思っています。</p>
横田委員	<p>皆さん、ここまで言うので見せたほうがいいのかと私は思っています。</p>
復興・総合計画課長	<p>体裁もありますが、御覧いただけるようにそこはしてまいろうと思います。</p> <p>同じ指標の取り方でも、県民がやってみたいと思うような見せ方もあるわけですね。例えば、健康もそうなのかなと思うんですが、歩いてみたいと思うとか、食べてみたいと思うとか、そういうものもあるような気がしています。その辺も含めて部局といろいろと議論していきたいと思っています。それから、気にしなければならぬのはスパンで、やはり指標の持っているスパンというの</p>

も非常に大事だと思っています。我々はできれば、指標そのものが短いスパンで取れるものは、やはり経営という観点もあるので、行政の運営をやっていくときに、短いスパンの指標はないのかと探しています。ただ、スパンが長いものも、数年というのも実際にあります。どうしてもだいたい過去のものになってしまうこともあるので、頂いた御意見の中にスパンが長いものがあると、もしかするとそれとは違うものを採用する必要もあると思っています。その辺は議論させていただきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

川崎部会長

ほかにございますか。なければ、今でいったんは大きな議題の2つ目が終わったとさせていただきますと思います。

冒頭に申し上げた大きな議題の3つ目、特にデジタルに関することが主なことですが、SDGsと主要施策、指標以外の修正点がいろいろありました。典型的には資料1の20ページの「デジタル変革(DX)の必要性」や、あるいは35ページ、「デジタル変革(DX)の推進」など、ほかのページでも赤字でこういった点を直したという説明が冒頭ありましたが、このあたりに関して何か御意見がありましたらお願いしたいと思います。

岩瀬委員

岩瀬委員、今回、新たに35ページなどが付け足されていますが、何か気になる点がありましたらお願いします。

この件に関しては、当初から、DXというのは今後の全産業、もしくは皆さんの社会生活に影響するということで、よく書くべきであることを申し上げてきました。それは反映いただいていると思いますので、現時点で、私はこれでよろしいかと思っております。以上です。

川崎部会長

ありがとうございます。

ほかの委員の方で何か御意見、御質問がありましたらお願いします。岩崎委員、お願いします。

岩崎委員

18・19ページの新型コロナウイルスのところの書きぶりですが、さきほども前澤委員がおっしゃったように、やはりこのコロナの影響は私たちの生活にすごく大きな打撃を与えていて、気になったのは、19ページの、例えば「従来からの課題の顕在化・加速化」のところ、何を言おうとしているかがあまりよくわからなかったところがあります。例えば、「デジタル化」で「3密回避・非接触のため、テレワーク、診療・授業のオンライン化が進展」ということですが、本当に進展しているのかとか、あるいは「移住・定住」で「地方へ移住者が増加」はどのぐらい増加しているのかとか、「健康づくり」は「感染予防のため、メンタル不調がありながら、健康意識が向上している」とか、「働き方改革」は「休校措置をきっかけとして家族のために休みを取る意識が向上している」とか、「本当にそうなの？」というところが少し気になりました。

先ほど女性の話もしましたが、やはり新型コロナで女性の自殺者が増えていくとか、学校休校に伴って家事の負担が増加して、DVが増えたりとか、いろいろ問題が実際に起きている中で、では、どうしていくのかというところをやはりきちんと示していく必要があると思うので、ここをもう少し丁寧に書いていただくのがいいと思いました。

川崎部会長	<p>ありがとうございます。特に19ページは、「県民等の意識・行動の変化で浮き彫りになった課題」とありますが、大きな枠の中でいうと、これは「福島県を取り巻く現状と課題」という第2章の中の「横断的に対応すべき課題」の中のひとつということになっています。</p> <p>今回、ここに掲載するに当たって、県庁内でかなりいろいろな方の議論を経て、こういった潮流にあるだろうという議論の結果として、県庁内部で議論した結果が載っているということですが、もう少し違う観点でのコロナの影響ということもあって、そういったことをエビデンスもつけながら、丁寧にもう少し検証しなければいけないのではないかとというのが岩崎委員の御意見ですよ。</p>
岩崎委員	<p>県庁内でワークショップをやっているという話は私も聞いていたんですが、県庁の外でも、あるいは外でこそ、大変な状況に直面している人はたくさんいるので、もう少しそこを反映できるような、まさにエビデンスも含めながら、コロナで福島県はどういう状況に置かれているのかということを示していくべきなのではないかと思います。</p>
川崎部会長	<p>19ページでいうと、大きな柱としては①から③までの3つがありますが、ここに示されていない課題というのがほかにもあるのではないかとということですね。</p>
岩崎委員	<p>そう思います。</p>
川崎部会長	<p>それについては、岩崎委員を始め、我々、各委員からこういった課題もあると、総合計画に載せるべきかという議論はまたあると思うのですが、ぜひ御意見を頂いてこのページを県民の生活の実態に即したものにできればと思います。ありがとうございます。</p>
石井委員（代理）	<p>ほかに、コロナでもいいですし、ほかのページでも構いませんが、何かございますか。石井委員。</p> <p>福島県でキャッチフレーズが「ひとつ、ひとつ、実現するふくしま」に変わり、中央紙の一面広告みたいなものもありますが、この計画の中にはその言葉をどう反映していくのか。イメージ戦略でいけば、今、多く出しているときに、総合計画に出てこないのはおかしいので、どこかに盛り込んでいただければなと思いました。</p>
川崎部会長	<p>ありがとうございます。</p>
復興・総合計画課長	<p>皆さんから毎回おっしゃっていただいていることですが、計画を作ってそれで終わりではだめなので、実現まで、『はじめる』から『かなえる』ということになっているわけですが、この「実現する」というところが更に重要だと思っていますので、どういう形かは検討しますが、必ず反映させていきたいと思っています。ありがとうございます。</p>
川崎部会長	<p>ほか、いかがでしょうか。よろしいですか。</p> <p>それでは、今日はたくさん資料があつて、細かいということもあつてなかなかすべて一つ一つできませんでしたが、議事になったことは大事なパーツになりますので、もう一度、ぜひお時間の御都合をつけて読んでいただいて、こう</p>

	<p>いうほうがいいのではないかと、さまざまな御意見を事務局のほうにお寄せいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは「その他」ということで、事務局からお願いいたします。</p>
事務局	<p>——その他——</p> <p>それでは2点、事務連絡をさせていただきます。事後意見につきましては前回同様、メールで照会を差し上げますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>2点目、スケジュールですが、参考資料2を付けております。次回の策定検討部会につきましては5月26日水曜日を予定しております。午後2時から「ラコパふくしま」の予定です。正式に決定しましたら通知を差し上げますので御出席をどうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>以上でございます。</p>
川崎部会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>では、以上で議事およびその他が終了しましたので、私の議長としての任は解かせていただきます。御協力いただきまして、ありがとうございました。</p>
司 会	<p>——閉 会——</p> <p>これをもちまして第6回の総合計画・復興計画策定検討部会を閉会いたします。どうもありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">(以 上)</p>